

平成 27 年度第 2 回南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成 27 年 10 月 8 日（木） 13:30～14:35

場所：函館市本庁舎 8 階第 1 会議室

（13:30 開会）

<議 事>

（南部座長）議題に入る前に配付している議事録をもとに前回会議の振り返りを行いたい。前回、意見交換の中で様々な意見をいただいております、本日、さらに議論を深めていければと考えている。本年度は今回が最終回となる予定なので、思い残すことのないよう、ご発言いただきたい。

まずは振り返りとして、前回どんなキーワードやアイディア、提案が出ていたのかということを確認していきたい。

それでは議題 1 について事務局から説明願いたい。

【議題 1】 事務局より資料 1-1, 資料 1-2, 資料 2 に基づき説明

（南部座長）南北海道定住自立圏共生ビジョンに関し、はじめに追加事業、その後に追加事業を含んだ全体の変更内容について事務局から説明があった。定住自立圏共生ビジョンは、圏域全体の人口定住に必要な生活機能の確保や活性化を図るという観点から、圏域の将来像やその実現に向けて推進する具体的な取り組みを記載するものとされており、必要に応じて毎年所要の変更を行うこととしている。

今回追加事業として提案があった生活バス路線の維持・確保については、昨年のビジョン懇談会において、次年度以降に検討する事業とされていた事業である。また、前回 7 月に開催された第 1 回ビジョン懇談会においても話題に上がっていた。説明があった件について、各委員よりご質問・ご意見をいただきたい。

（意見・質問等 なし）

それではこの変更案をもって本年度の南北海道定住自立圏共生ビジョンの成案として確定したい。

（各委員）異議なし

<その他>

(南部座長) 続いてその他の議題1について事務局から説明願いたい。

【議題1】 事務局より資料3に基づき説明

(南部座長) 10月16日に予定されている南北海道市町村連絡協議会の中で何らかの意見が出てきた場合は、どのように取り入れていくことになるのか。

(事務局) 定住自立圏推進要綱の中で、少なくとも年に1回、圏域内の全ての市町長による懇談の場を設けるとされており、その懇談を連絡協議会と兼ねて行っているものであるが、出された意見等については、連携市町との担当課長会議やビジョン懇談会などの場で検討し、ビジョンに反映させていく。

(南部座長) 昨年度の協議会における懇談では、どのような意見があったのか。

(事務局) 9月にビジョンを策定し間もない時期の開催だったこともあり、まずは進捗状況と今後のさらなる連携に向け取り組みを強化していくという確認がなされたもので、具体的な事業提案などはなかった。

(南部座長) その他の議題2については、前回の懇談会において各委員からいただいた意見をまとめたもので、改めてここで内容を確認したい。事務局から説明願いたい。

【議題2】 事務局より資料4に基づき説明

(南部座長) 来年度はここから1回目をスタートすることになる。この意見をまとめたものをベースに、不足している点、追加・補足など、今後の共生ビジョンに連携事業として新規・拡充してはどうかという視点でご意見をいただきたい。

(池田委員) 地域の魅力創出の中に、誰もが日常的に交流できる雰囲気づくりとあるが、具体的にどのような意見であったか。

(南部座長) 子供がいなくなかなか地域に入っていくきっかけを掴むのが難しい。そのきっかけをうまく地域の中に作っていければといった内容の発言であったと思う。また、定住の際に、いろいろとおしゃべりをしながら交流していく中で、地域の人とのハードルがどんどん下がってくるというお話があった。そのようなことを仕組みとして地域の中に作っていければということで確認しておきたい。

(松本委員) これまで地域公共交通のを中心にお話させていただいてきた。この共生ビジョンは函館市にいろんな機能をどんどんブラッシュアップ・強化していただき、周りの市町がいかに連携し動かしながら、利用していけるかということと理解している。

今、人材育成が地域全体で必要なことと考えている。人が流出していくのを防ぐため、私の会社でもお客様サービスの向上を目指し教育機会を設けている。例えば介護士の研修であるとか、また、運転手になっていただけるかたを育成していくため第二種免許の取得促進を考えている。そのような場合、すべて函館市に通うことになるので、函館市にはどのような人材育成の機会があるかPRし、門戸を開き、比較的容易に参加できるような体制作りを期待する。私の住むせたな町からだ、例えばスクーリングなどがあると費用がかかるという問題もある。今後、地域全体における人材のレベルアップを図っていくような人に着目した事業の検討も必要ではないかと思う。

(南部座長) 他にも職業や技能などで、人を育てるときに使いたい函館市のリソースはあるか。

(松本委員) 直面しているのはその2つだが、観光の面では語学の勉強が考えられる。例えば夜に未来大学など、いろいろな大学で外国語関係のセミナーをやっていただき、そこに連携市町から参加して、様々な言語に慣れていくようなことはできないか。これから新幹線が開通し、外国のお客様ももっといらっしゃる中で、函館市であればそのような状況に対応できるトレーニングの場所を提供出来るのではないかと思う。連携市町は参加・利用することで、地域全体の盛り上げに繋がっていくのではないか。

(南部座長) 観光で通訳が不足しているという現状については、前回もご意見をいただいているところであり、函館市のリソースを共有しながら人材育成し、地域を盛り上げていくという視点は追加して考えていくこととしたい。

(平野委員) 外国人が北海道に来て北海道の文化を勉強し、住みたいと思っただけになるには、地域の人が外国の言葉をわからなければ、受け入れ側にも難しい部分がたくさんある。

丘の駅にお越しいただいた外国人に物産の説明や地域のこと、食べ物などのお話をしたいところだが、うまく言葉が話せないため通り一遍のことしか言えず、もっとコミュニケーションができればと感じる場面が多い。語学ができる人がいればずいぶん違う。通訳不足は顕著であり、その人材育成は切実な問題となっている。日本人も含めて函館市で勉強し、育成していただく仕組みがあれば外国人との交流がもっと広がっていくのではないか。

(南部座長) 人材育成に関し、前回までは点で考えていたところがあると思う。中心市のリソースを使うことをはじめ、道南全体で育てる体制を作るということは、重要なことだと考える。せっかく来ていただいているのに、説明不足のため何も買わないで帰る。あるいは地域のことをよく説明できないままに帰してしまうのはもったいないと感じた。

前回と今回でいただいたご意見を踏まえ、次年度以降のビジョン懇談会に引き継ぐこととしたい。

(南部座長) その他の議題3であるが、皆様には今年度、それぞれ専門的な立場で各地域の声を共生ビジョンに反映させる委員としてご協議をいただいた。今回が年度最終回となるので、このような人が集まる場の作り方や具体的な事業に関してのアイデア、感想も含めお一人ずつご発言願いたい。

前回のビジョン懇談会から状況が様々に変化している。例えば、これまでにご発言のあった難民問題に関しては、喫緊の問題だということが日本の中に住んでいても見えてくるようになってきている。また、函館市がまちの魅力度ランキングで2年連続1位になったという報道があったが、地元に住んでいる人の間では、その魅力が意外と共有できていないのではないかとということも感じられ、こういった地元の魅力を函館だけではなくて、道南全体に広げていく取り組みも必要なのではないかという思いもある。さらに、新幹線の開業日程も決定した。

(坂下副座長) 医療の立場からお話すると、ドクターヘリについては順調に飛んでおり、また、医療情報共有化も共生ビジョンに盛り込むことができた。今後は、二次医療圏ごとに国からベッド数の削減が示されている中、地域としては退院後の受け皿が課題となっている。檜山における会議では、医療と福祉が連携し地域で解決できるような体制作りが必要との意見があり、さらに検討していきたい。

新幹線の開業日程が決まったので、このビジョンの中にもさらに新幹線という文言を取り入れた形を出していければ良いのではないかと思います。

(南部座長) こちらについても検討事項とし、次年度以降のビジョン懇談会に引き継ぐこととしたい。

(松本委員) 仕事の関係上、移動の足に重点を置いた話が多かったが、私自身、地域で新たなチャレンジをどんどんやっっていこうと思っている。地域が住みやすくなるために、中心市である函館市の機能をうまく活用していくには、距離への対策が重要との認識である。現段階では国の予算で担保された事業にはなるが、特に高齢化社会の中で、いかに足を確保するかについて考えていきたい。

今回の共生ビジョンには、函館市のしっかりした機能に対して周りの市町がどうやって

ついていき、使用していくかというお話をし、その元になるような文言は入れていただいたと考えている。

また、観光関係では、函館市をプラットフォームとして渡島・檜山で連携しながらお客様にお越しいただく取り組みをするという考え方がある中で、そこでいかに交流人口を増やし、お金を落としてもらい、地域の元気に繋げていけるかが大きな課題だと思っている。

しかし、具体的な議論に入りにくい面があるのは、南北海道として連携していく組織があるものの、各市町において観光協会の組織体制のばらつきや取り組みへの温度差があって、うまく組織を活用していくことができていない弱さがあるからではないかと思う。まずそれぞれの地域において、能力を発揮できるような組織作りを行い、その後に連携し事業を進めていくという順序立てが必要ではないかと感じている。

(今泉委員) 国のメニューで、地域おこし協力隊や田舎で働き隊などがあり、いろいろな自治体で外部人材を採用している。ただ、協力隊員に会って話を聞くと、本来の役割とは違う方向になっているのではないかと感じることもある。人口分散化の施策などで、今後ますます外部人材が地域に入ってくることになると思うが、現状では受け入れ側の自治体の意図が協力隊員にきちんと伝わっているのかが疑問で、ミスマッチが多いような気がしている。北海道では協力隊員向けの研修を年に1回やっているが、自治体の方々についても、例えばまちづくりで活躍されている方を講師に、受け入れについて事前に学べるような機会があればいいのではないか。外部人材の活用への取り組みについても検討してはどうかと思う。

(南部座長) ミスマッチの典型的な例はどのようなことか。

(今泉委員) 自治体が提示したメニューや面接で言われたことと、現実が異なっているということ。実際に任期の途中で辞めて戻った人もいる。自治体のかた、辞めた協力隊員どちらも言い分はあると思うが、国の税金を使っている事業でもあり、きちんと定着できるように応援していく機能がこの道南にあれば、多くの良い人材が来るのではないかと思う。

(平野委員) 協力隊については八雲にも3名入ったが、1名しか残っていない。地域でも初めての協力隊だったので、慣れていなくてお客様扱いしてしまったところもある。本人としては夢と現実の違いがあったということもあるかもしれないが、移住し、3年間で何をやるのかという明確な目的を持って来るかたがどれだけいるのか。八雲の場合は協力隊に入る前の研修も必要なのではないかと思う。

八雲観光物産協会では、情報交流物産館をつくり近隣町村と広域観光連携に取り組んでいるが、それぞれの地域の意見をまとめ成功事例を作り出すのに難しさを感じている。やはり中心市の函館がイニシアティブをとり、人材育成をはじめいろいろな観点から周辺市

町への情報提供や研修などを実施していただき、道南での連携がより広がっていければと思う。

八雲は酪農の発祥地でもあり、また、海や山に関わる産業はたくさんあるがなかなか大きくなれず、人口減少が進んでいる状況で、観光はまちづくりに欠かせないものと思っている。単なるイベントにとどまらない、外貨を稼ぐ産業と位置付け、地元が活性化するための観光物産に取り組んでいる。これからも函館市とは連携しながら行っていきたい。

(岡田委員) 今年トマト畑での収穫体験と新しくオープンした矢越山荘を連携させた観光メニューを作った。それが好評ですでに来年の予約も来ている。外国人の利用もあったが、当方でも言葉の対応ができず、うまくアピールや説明が出来なかったことは、今後の課題と認識している。当初は特に目新しさが無いとの思いから集客については懐疑的であったが、実施してみると、畑でとれたてのトマトを食べるという体験は通常できないことで、トマトのおいしさもあって評判が良く、地元の資源を利用した観光メニューとして成果を感じた。

また、今年アユ祭りも行った。50名程の参加がありアユを釣って塩焼きなどを食べていただいた。来年度以降も継続し誘客に繋げることができればと考えている。

(出羽委員) 松前・福島地区から委員として選出されているが、共生ビジョンにおいては当地区の弱い部分についてよく網羅された政策体系になっているものと思っている。

交通について、新幹線の開業により移動時間が短縮され便利になるのは良いことだが、一方では路線バスの減便など、地域住民の負担が増えいくのではないかと懸念もある。今回、地域公共交通の項目に連携事業として追加となった路線バスの維持・確保については大変重要なことと考えており、事業の進展に期待している。

(池田委員) 二つ興味深い団体を紹介したい。一つは浦河町にある「べてるの家」という団体で、精神障害や様々な障害を抱えた人たちが、病院を出てグループホームで生活し、昆布加工品などを売って収入源としている。グループホームを作るために、空き家を団体が買い、そこに人が住むことで地域に出るということを行っている。地域の空き家も減ることになり、新たな地域活性化という意味で非常に興味深いと思っている。世界中からこの活動の研究のため研究者が訪れており、団体では今後、世界に活動を広げようとしている。

もう一つは新得町にある「共働学舎」。そこではハンディキャップを持った人たちが、それぞれ足りないところを補い合いながら共同生活をしている。

どちらも何らかのハンディキャップを持った人たちが、地域で生き生きと活動している場所になっている。この道南でも空いている家や公共施設はたくさんあると思うのでそのような場所を活用して、ハンディキャップを持っている人たちや外国人など、いろんな人

たちが共に暮らせる社会作りが出来れば良いなと思う。これをヨーロッパなどではソーシャルファームと言い、社会的な企業として発展している。道南でも是非こういった取り組みができればと思う。

(三浦委員) 新幹線開業が3月26日と発表され、国内の動きも活発化してくるものと思っている。函館においては、今月、杭州―函館便が運航される予定であり、また函館アリーナもオープンし、本日も全国自治体病院学会が開催され、2,000名以上のかたにお越しいただいているほか、今後しばらくは大きな大会が続くということで明るい話題となっている。

日本銀行函館支店が毎月1回発表している金融経済動向では、観光は拡大しているという報告であるが、市内の観光施設の入込状況を見ると、対前年を大きく割っている施設が結構多い。結局はインバウンドが底支えしているが、国内観光客は減少している状況ではないかと思っている。少子高齢化で国内人口が減っていくので外国人の労働力や誘客を求めるとことは当然であるが、今後はもう少し原点に戻って国内の誘客にも努めていきたいと考えている。

先日、北陸新幹線を視察したところ、良い状況で伸びているということではあったが、やはり夜の街を見ると歩いているかたが少なく、日本全国でインバウンドが観光の底支えをしているものと実感した。国内のお客様の掘り起こしをしていく必要があると感じている。

(吉崎委員) 今年度初めて参加したが、多職種の方々のいろいろなご意見を伺い、大変参考になった。今、医療界では地域包括ケアシステムの構築が求められており、医療や介護、また、在宅医療の推進に向けて各地域でシステム作りが行われているところである。そのようなシステムきちんと完成することによって、定住環境の整備に貢献できると思っている。皆様のご意見を尊重し、反映させた良いシステムを作りたいと思う。

(南部座長) これまで函館はとても生活しやすく、豊かな場所ということもあって、普通に暮らしていると、そこにどんな問題があるのかがあまり見えてこなかった。このような機会をいただき、皆様との懇談を通じてこれまで他人事として気が付かずにいたいろいろな問題を自分のこととして捉え、自分も何かできるのではないかとの思いで地域を見ることができたのは貴重な経験であった。

教育の現場にいたので、当事者として地域を見ることができるようになった自身の体験や懇談会で見聞きしたことを若い人たちに繋げていきたい。研究者としては効率的に育てたいと思うが、いろんな失敗がありながらも、みんなが挑戦していけるような種を蒔いて、土地を耕すことをやっていきたい。具体的には学生がまちに出る授業の中で、まちを見てまちのために自分は何ができるのかということを考える人を増やしていきたいと思う。

各委員にはご協力いただき、今年度も大変良い成果が得られたと思っている。心から感謝申し上げる。

(事務局)

次回会議日程について

- ・ 次回懇談会は来年度の開催を予定

変更後のビジョンについて

- ・ 国・道等への送付のほか、HPで公表
- ・ 懇談会委員への送付（ご意見は事務局へお寄せいただきたい）

(14:35 会議終了)